

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 5 月 15 日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691400115
法人名	医療法人 浩愛会 池田温泉クリニック
事業所名	グループホーム まごころ
所在地	鹿児島県垂水市錦江町1-238 (電話) 0994-32-6676
自己評価作成日	平成28年1月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年3月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念の通り、ひまわりのように明るく、優しく真心を込めて入居者様一人一人を支えること。入居者様一人一人としっかり向き合い、気持ちに寄り添いながら住み慣れた家、地域での暮らしを切れ目なく支えていくこと。地域の一員として、地域社会との交流を図り、支え合える関係を築きながら、御家族や地域社会との関係を調整する支援を行っていくこと。この事を念頭にケアに努めていること。個々の想いはそれぞれ異なり理想通りの生活になっているかはわかりませんが、その人の理想に少しでも近づけるようなサービス提供に努め、まごころに来て本当に良かったと想って頂けるようにチーム一人一人が自覚してチームケアを行っていること。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### 【理念について】

「真心、寄り添い、支え合い」という理念の意味について職員全員にアンケートをとり、話し合う機会を設け理念の理解を図っている。更に、本年度から、理念に対する事業所目標を設定し、職員個人の目標までを設定したことで事業所目標に対する職員の統一した姿勢と、個人目標による理念を意識したケアの実践に取り組んでいる。

#### 【重度化、看取りへの支援について】

今年1月に看取りを支援したことで、管理者はもとより職員全員が重度化した場合の支援方法や看取りへの対応の重要性について改めて感じ、一日一日のケアの大切さを考えられるようになった。今後は、勉強会や研修会への参加、医師や看護師との連携強化を図ることで、技術と知識の向上を図り、チームで支援できる体制を整えていきたいと考えている。

#### 【事例検討会の開催について】

同法人のグループホームと小規模多機能ホームが隣接しているが、周囲にはスーパー等の企業が多いため、思うように地域行事ができていない実情がある。そのため、法人や事業所のことを広く地域に知ってもらうために、今年2月事例検討会を垂水市民会で開催した。発表内容として、ターミナルケアや認知症のBPSDについて等9事例について事業所の取り組みや支援方法を発表したことで、地域との連携や情報の拠点として運営していくことを確認することができた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	玄関、またネームプレートに理念を掲示し常に見る事が出来る様な環境にしている。そしてケアプランに理念が反映される様にスタッフ間と連携している。	管理者は理念である「真心、寄り添い、支え合い」について職員一人ひとりがどのように理解し、日々のケアに実践させているかをアンケートや話し合いにより確認し、理念の意味を職員全員が統一した思いで取り組んでいる。本年度より、事業所目標と職員個人の目標を設定し、毎日チェックすることで目標達成状況を把握するようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、近くの店に買い物、散歩等に行き事業所の行事等は参加を呼び掛けている。	地域行事である「おんだんこら祭り」や垂水文化会館での文化祭に参加したり、事業所主催の夏祭りや敬老会、クリスマス会等の行事に地域住民に参加してもらえるよう民生委員や行政に案内を出すなど声をかけている。企業が多い地域で近隣との交流の機会が少ないため、事業所を広く知ってもらうことを目的に垂水市民会館で事例検討会を開催し、地域への情報発信に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	御家族等の相談には適宜行っている。また事業所の事例などを法人の事例発表会の際、地域に発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、御家族などに参加して頂き、サービス向上につながる様な会議が出来る様に心掛けるとともに、会議で出た内容などを少しでも反映出来る様にしている。	利用者や家族、民生委員や行政職員らが参加し、隣接する小規模多機能ホームと合同で開催している。メンバーからの意見で野良猫が多いため不衛生にならないよう対応策について検討したり、最近、虐待のニュースが多いことを受け、人の目が多く入ることの重要性や、事業所の実情理解のためにも、メンバーや地域住民に自由に立ち寄りてもらえるよう説明しているところである。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議時に、報告を行ったり、市の介護支援専門員研修会に参加して情報を交換して関係構築に努めている。	介護認定申請や運営推進会議、相談事がある時等に市役所を訪問するほか、週に一度は訪問するようにして事業所の取り組みや実情を伝えたり、意見や情報をもらうよう努めている。また、毎月の介護支援専門員の研修会にて行政や地域包括支援センターの職員と意見交換するなど、日頃から利用者の暮らしぶりを伝える機会が多い。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内での委員会、研修会に参加して、身体拘束廃止に向けて指針を理解して、身体拘束ゼロに取り組む実践している。	人権の尊重や身体拘束に関する勉強会、身体拘束廃止委員会による発表など、事業所内部で学ぶ機会を設け、職員の理解につなげている。自由な暮らしを支援するため、日中は玄関の施錠は行わず、職員の見守りを中心に対応している。また、「ちょっと待って」等の行動を制限する言葉かけを耳にした時は、その都度声をかけるなど注意し合うようにしている。近隣企業には、万一の際の連絡・連携が図れるよう事業所の特性を伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での委員会、研修会に参加して、虐待防止に向けて指針を理解して、虐待しないケアに取り組む実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内で年に1回必ず、外部からの講師を招いて勉強会が実施されるので、その際にしっかりスタッフ皆で考え、権利を阻害しない様にケア実践を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前に説明を行い、退去や重度化、ターミナルケア、リスクを説明し、納得されたのち署名して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様の普段の言動を捉えて記録し、御家族来所時、又は電話報告等で意見を伺い、ケア会議等で議論し運営に反映出来る様に努めている。	利用者の意見については、日頃の会話や言動から把握するよう努め、家族には来訪時に必ず声をかけ、近況を報告したり要望を尋ねるようにしている。また、相談事や苦情については、いつでも受け付けており、日頃から何でも話をしてほしいと伝えている。今後は意見を出しやすいよう食事会を兼ねた家族会の開催を検討中である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ケア会議や日頃の個々との何気ない会話などから意見などを聞いて反映出来る様に努めている。	管理者は日頃より何気ない会話や世間話の中から職員の意見を汲み取るとともに相談事にも快く応じている。また、毎月のケア会議や理念についての個人目標達成状況の確認等のため、2ヵ月毎に個人面談を行っており、その際にも職員一人ひとりの意見を詳細に聞き取ることができている。休日の取得についても勤務表作成時に希望を確認し可能な限り対応している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課等を実施して勤務状況を把握したり、往診や巡回を利用して、意見を聴いて改善を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の能力や特性に合わせて議題研修や法人内の研修を開催して、職員のスキルアップを図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市の介護支援専門員研修、三木会、イベント等に参加して交流の機会を作り、意見交換を行いお互いのサービス質向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	常に笑顔で対応に努めて、不安や要望に対応、解決までの支援に努め安心としんらいを得る様に努力している。		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	契約時に、疑問点、質問等を尋ねてその場で出なくても、その都度聴いて対応できるように心がけながら、関係構築に努めている。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	御本人、御家族の意向を確認しながら、無理のない様にスムーズなサービスが出来る様な対応に心掛けている。		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	入居者様が同じ家に住む家族としての関係を築けるように、出来る事は一緒にして頂き共に暮らす者として対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来れる家の様な環境作りや御本人と家族の協力を得ながら関係維持に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人が在宅時の関係を保持出来る様に美容院等への外出を家族の協力を得ながら行っている。	入居前の人間関係や馴染みの場所を把握し友人宅やお寺、お店など可能な限り個人の希望する外出先に同行するようにしている。また、家族に近況報告書と毎月の書類を送付する際には、利用者にも手紙を書いてもらい一緒に送付することで、家族からも返事があるなど利用者の楽しみにもつながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同部分での座席位置など、楽しい時間を過ごせる様に日々の様子を観察して支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても本人様、御家族様には困った時など任何时候でも相談出来る事を伝えて関係維持に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関わりの中で、御本人の気持ち、意向などを聴いたり、して把握に努めている。	思いや暮らし方の希望については、日常の何気ない会話や表情から汲み取るよう努め、職員間で話し合うことで利用者の思いに近づく努力をしている。把握した内容は連絡帳に記録して毎日の昼礼で情報を確認し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、家族からこれまでの生活歴、自宅、人間関係等の環境把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴を聴いたり、様子観察を行って、本人の過ごし方や残存機能、能力把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族のニーズを考慮して日々の状態観察に努めて、職員間でアイデアを出し合って介護計画を出し合っている。	毎月のケア会議で利用者全員分の状態を確認し職員間で話し合うほか、3ヵ月毎にモニタリングを実施している。また、今年の4月より短期目標の達成状況を毎日チェックできるよう「実績記録」の作成を検討している。介護計画の作成には利用者、家族の意向のほか、主治医の意見も組み込まれ、状態が変化した場合などには現状に即した計画を再作成し、関係者に交付している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個々の介護記録や申し送り、連携ノートを活用して職員間で情報の共有に努めている。また介護計画を定期的に見直しを行いケア反映に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人、家族の状況変化に応じてニーズの変化にも対応できるように情報把握、行政機関、関係事業所と連携に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域との関係を継続出来る様に、外出、買い物また顔なじみなどと交流する機会を設けている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>御本人、家族の意向を反映して主治医を決めてもらっている。必要に応じて受診などの支援も行っている。</p>	<p>本人、家族の希望するかかりつけ医を受診できるよう家族と職員が協力し合い受診を支援している。受診に行く際には、必ず受診前後に家族に連絡しており、受診の内容や処方薬の変更等必要な情報を伝えている。受診の内容は連絡ノートや介護記録に記載し、昼礼やケア会議等で確認している。協力医療機関とは緊急時等速やかに対応できる体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態報告、また変化は定期的に報告を行い、必要に応じて助言、指導を行い連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は当該病院の関係職員との情報交換を定期的に行うとともに、情報把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に必ずご家族と検討している。またご家族の意向に配慮した支援、主治医、関係スタッフ、御家族、も含めたムンテラを行っている。	入居時に重度化やターミナルケアについて説明しており、入居後も状態に変化がみられた場合等状態に応じて繰り返し説明をしている。今年1月に看取りを経験したことで、一日一日のケアを大切に考え接することができるようになったと感じており、今後は隣接する小規模多機能ホームの看護師や医療機関との連携、また、研修会の機会を増やして技術面の向上を図るなどチーム力を高めていくようにしたいと考えている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて定期的に行っている。特に入居者の疾患など今後考えられる急変などを中心に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の防災訓練を行って、近隣の方や民生員の方にも参加して頂き、災害時に備えている。	年3回隣接する事業所と合同で防災訓練を実施しており、近隣のスーパー等企業の職員の方々の協力も得られ、避難誘導や避難場所での見守りをお願いした。また、緊急通報の際の連絡先に登録してもらうなど日頃から協力し合える体制を整えている。備蓄については、約50食分の食料と飲料水を確保し、備品についても懐中電灯や防災ラジオ等を設置、今後は地震や噴火に備え、ヘルメットも準備したいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権について法人内で研修などを行ってしっかり理解するように努めていること。またトイレなどの訴えの場合は耳元で語りかけるなどの配慮を行っている。	人権擁護に関する研修を外部講師を招いて実施したほか、市民会での研修会にも参加し、研修内容を事業所に持ち帰り報告している。日頃からプライバシーを損ねない声のかけ方や対応の仕方に気を配っており、特にトイレ誘導の際には留意するほか、守秘義務等個人情報についても来訪者にも繰り返し説明しているところである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、本人が望まれる事を話の中から引きだして、実現出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人がどのような暮らしを望んでいるのか。スタッフ全員で情報の共有に努めてケアに反映出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	お化粧品など長年続けて来られたことをいつまでも続けて頂けるように声掛けしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好や状態に配慮して、毎回食事の時間が楽しみにそして、美味しく食べれるように支援している。また食事の前後の後片付け手伝ってもらえる範囲で行ってもらっている。	季節の行事に合わせたメニューを、調理の下ごしらえや配下膳等、利用者も参加して食事の準備を行っている。また、食べたいものがある時はなるべく叶えられるよう対応しており、年に数回は道の駅等に外出に出かけるなど食事の楽しみを大切にしている。手作りのおやつは利用者大変喜ばれており、誕生会には職員による手作りケーキでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分、食事の摂取量を記録して少ない時は味付けの工夫、管理栄養士に指導を促し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の嚥下体操、食後の口腔ケアは日々行っている。また歯科衛生士による口腔ケア指導を定期的にスタッフへ行い、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録を元に、排泄の間隔、失禁などを考慮して、声掛けなどで促し、出来るだけ定期的な排泄を行う事で、失禁、脱オムツを目指している。	ポータブルトイレを使用する利用者はおらず、全員トイレで排泄することができている。尿取りパットについては、排泄チェック表を活用し個々のパターンを把握することで、極力使用せず過ごせるようになっていく。作品作り等に熱中してしまい、トイレに行くことを忘れてしまっている場合には、職員がさり気なく声をかけトイレに誘っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄記録記載を行い、また水分摂取量、食事量にも配慮すると共に、貯金体操、レクレーションにおいて出来るだけ体を動かし便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の希望を第1に考えて行っている。また浴室、湯温等にも好みが違うので、合わせたケアが出来る様に行っている。	入浴日は設けておらず、入りたい時にいつでも入れるよう対応している。また、羞恥心にも配慮しており、希望があれば同性介助も可能である。温泉に行きたいという希望が出ているため、5月頃に行こうか検討しているところである。入浴後はお茶やポカリスウェット、夏には麦茶を用意し、好きなものを飲んでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不穏や不眠の方には、無理にすすめずに、様子観察後本人様の状態ですすめている。また光、音などに十分配慮して個々にあった環境に努めている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師から直接指示を受けて管理を行っている。又服薬にて状態変化に備え、主治医、薬剤師との連携にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人の出来る事を、日々の観察から見い出して、職員間で情報を共有して、生活の中に取り入れる様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	隣接施設との合同レクリエーション、行事、また御本人の希望に応じて買い物の同行等行っている。またご家族との外出、外泊の支援を行っている。	室内ばかりではストレスにつながるため、日常的に散歩や買い物、菜園等屋外に出て外気浴を楽しむようにしている。遠出の外出もあり、初詣や4月に地域で開催される「おんだんこ祭り」、桜や紫陽花、コスモス等の花見に出かけるほか、年に数回、道の駅等に外出に出かけるなどして気分転換を図っている。また、歩行が難しい利用者には、車椅子やリフト車を利用して外出するなど季節毎に出かけることで五感刺激が得られるよう外出方法を工夫し支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の都合が悪く、買い物に同行する時は本人様に財布を持って頂き、必要に応じて声掛けの援助をしながら、出来るだけ自分で買い物が出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望により、電話を行う様になっている。またご家族からの郵便物、手紙などの差出支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間でも本人の希望に添えるように、他の入居者様の意向、状態を配慮して快適な空間作り、季節、天気を考えながら周囲や施設内の音、光を工夫して居心地の良い空間作りに努めている。	目の前に錦江湾が広がり、桜島が望める立地にあり、同法人のグループホームと小規模多機能ホームが隣接しているため、利用者同士の交流も多い。感染症予防に配慮し、加湿器の設置やこまめな換気を行うとともに浴室と脱衣場の温度差に気を配るなど空調に配慮している。玄関やフロアは日当たり良好で明るく、管理者が描いた利用者や職員の似顔絵が飾られており、ユーモラスな作品は見る人達を和ませている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファや和室などを利用して、入居者同士の楽しく過ごせる場所、また一人で落ち着ける環境作りに配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い勝手が良い様に、自由にレイアウトしていただいている。本人様が快適、安全に過ごす事が出来る空間としての居住環境になるように支援している。</p>	<p>電動ベッドとエアコン、タンスが備え付けられ、自宅から馴染みの品を持ち込んでもらい、過ごしやすいよう自由にレイアウトしてもらっている。室内清掃については、毎朝職員が行っているが、時には利用者と一緒に掃除をすることもあり、コミュニケーションにもなっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の能力に応じて居室の工夫をしたり、ホールの空間を快適に安全な場所になるように工夫している。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない